

# 宇治市教育委員会定例会会議録

日 時 令和6年12月17日(火) 午後5時45分 開議

場 所 宇治市役所602会議室

## 会 議 日 程

- 日程第1 会議録署名委員の指名について  
日程第2 報告  
日程第3 議案第16号 令和6年12月宇治市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

会議に付した事項 会議日程に同じ

出席者

教 育 長 木 上 晴 之  
(教育委員)  
教育長職務代理者 加賀爪 毅  
委 員 中 筋 斉 子  
委 員 小 山 栄 子  
委 員 左 聡 一 郎

(出席職員職氏名)

教 育 部 長	福 井 康 晴	教 育 部 副 部 長	川 崎 吉 隆
教育支援センター長	武 田 義 博	教 育 総 務 課 長	柯 慈 樹
学 校 管 理 課 長	吉 田 健 一 郎	学 校 教 育 課 長	安 留 岳 宣
学校改革推進課長	吉 川 貴 之	学 校 管 理 課 副 課 長	宮 山 博 輝
学校教育課副課長	天 花 寺 裕	学 校 改 革 推 進 課 副 課 長	平 山 幸 司

(書記職員職氏名)

教育総務課企画庶務係長	稲 垣 大 祐	教 育 総 務 課 主 事	西 村 結 衣
-------------	---------	---------------	---------

## 開 会 (午後5時45分)

○開会宣言 教育長が12月教育委員会定例会議の開会を宣言する。

○日程第1 会議録署名委員の指名について

教育長から宇治市教育委員会会議規則第13条第3項の規定により、左委員を指名する。

○日程第2 報告

- (1) 文教・福祉常任委員会（令和6年12月11日）について
  - (2) 令和7年度宇治市立笠取小学校特認入学募集結果について
  - (3) 宇治市の児童・生徒数推計について
  - (4) 「要望書」等について
  - (5) 宇治市教育委員会後援事業について
- 以上5件を報告する。

(1) 文教・福祉常任委員会（令和6年12月11日）について

① 宇治市子どもまんなかプラン（初案）について

○渡辺 浩司 委員

- ・子どものための相談窓口について、保護者や学校、学校の先生以外に相談できる場所はあるのか。
- ・妊産婦への支援について。
- ・医療機関との連携の強化について。

○西川 美代子 委員

- ・「こども110番のいえ」について、宇治市内での数は。
- ・病児、病後児保育事業について。
- ・私立幼稚園が定員割れをしている原因は。

○谷上 晴彦 委員

- ・医療費負担、18歳までの医療費無料化について（市長選挙を経ての角度からの質問もあり）。
- ・学校給食費の無償化の考え方について。
- ・教材費、高校生の通学費補助などの子育て応援策について。
- ・育成学級の拡充について。
- ・こども誰でも通園制度の現状や体制について。

○真田 敦史 委員

- ・子育てしやすい風土、社会全体で子どもたちを育てていく観点について。
- ・子育てのしやすいまち、やさしいまちについて、地域コミュニティが希薄化してきている中でのイメージ等について。

- ・世代に関係なく、皆で育てる風土づくりをどのように実践していくのか。
- ・子育て支援拠点についての課題をどのようにサポートしているのか。
- ・計画期間の令和11年度までに進める中でのスケジュール感、どういうタイミングでやっていくのか。

○宮本 繁夫 委員

- ・障害のある児童の保育・教育については、公立幼稚園が大きくサポートしているが、幼稚園が1園になる中、どのような形で支援をしていくのか。
- ・公立幼稚園のスクールバスの課題について。
- ・医療費無償化の考え方について。
- ・医療費助成が18歳まで無料となった場合の市の必要財源について。

② 南部小学校給食調理等業務委託の公募型プロポーザル結果を踏まえた今後の対応について

○真田 敦史 委員

- ・もともと金額が足りていないという中で、他市平均との差を予測できなかったのか。
- ・市の予算計上の方法は先例を基礎に考えているが、そういった発想を変えないとまた不調になるのではないか。
- ・今後小学校が小規模になっていくので、委託単価の区分を規模に応じて細かく設定し直すことについて。

○谷上 晴彦 委員

- ・今年度の予算額では物価上昇を見込んで4%上積みしていたとのことだが、その4%はどこから来ているのか。
- ・他市と比較し、宇治市は予算額が低過ぎるのではないか。
- ・民間委託することで競争原理が働くという説明であれば、その論理は成立していないのではないか。直営に戻すべきである。

○渡辺 浩司 委員

- ・業者の聞き取り方法について。

○西川 美代子 委員

- ・予定価格は、他市平均に近づけるよう見直すのか。
- ・ドライシステムを導入している学校はどこか。

○宮本 繁夫 委員

- ・公募型プロポーザル方式の仕組みについて。
- ・これまでの入札方式であれば金額等で落札者を決定していたが、公募型プロポーザル方式では総合点で決定される。どういった決め方をしているのか。
- ・委託には競争の原理が働いていないのではないか。
- ・どういった優位性を認めて業者を選んでいるのかを示すべきだ。
- ・直営から委託に変わったことによって献立が減ったのではないか。給食の水

準を確保すべきである。

- ・委託業者が、現場で働いておられる方の待遇を改善することで、給食の質の向上が期待できる。

[質 疑]

[委 員] ①の報告について、子どもの医療費助成に教育委員会は関与しているのか。

[事務局] 教育委員会は関与していない。今回福祉部局と合わせて報告しているので福祉部局からお答えしているものである。

[委 員] 宇治市は中学三年生まで200円だが、亀岡市は18歳まで負担はゼロ、府下市町村で一番高いのは京都市である。宇治市は決して高い訳ではないが、疾病の種類によっては負担額が膨らむケースもある。高校生まで負担がゼロになれば良いと考えている。

[委 員] ①の報告において、子どものための相談体制について、身近な相談窓口の充実というのは、例えば条例に基づいて子ども相談センターみたいなものを立ち上げていくということなのか。

[事務局] 今年度から福祉部局でこども家庭センターを立ち上げており、条例ではなく内規で定めている。数年前にはヤングケアラーの相談窓口を設け、周知は市政日より等で行っている。

## (2) 令和7年度宇治市立笠取小学校特認入学募集結果について

[説 明]

募集期間は、令和6年10月17日から令和6年11月22日までで、募集の初日の10月17日に授業参観、学校見学、学校説明会を実施した。募集結果等は、学校説明会等の参加者は6名、校長面接を受けた者は2名、最終応募者、いわゆる入学希望者は2名であった。今回3名の募集に対して2名の応募があったため、2名の入学予定者を決定した。この結果、令和7年度の笠取小学校の在校生は、新1年生は地元1名、特認2名の計3名となり、学校全体では、地元2名、特認17名の総数19名となる見込みである。

[質 疑] なし

## (3) 宇治市の児童・生徒数推計について

[説 明]

本推計は、令和6年5月1日時点の児童生徒数及び0歳から5歳の乳幼児の人口を基にして、現在の0歳児が小学校1年生になる令和12年度までの児童生徒数を推計したものである。教室数は、5月1日時点の数を用いている。

P1の小学校児童数推計表（総括）は、令和12年度までの学校別の学級数と児童

生徒数を記載している。左側から、学校名、令和6年5月1日現在の数値、令和7年から令和12年までの推計値となっている。令和6年5月1日現在の列に「実C」、「C」、「児童数」と並んでいるうち、真ん中の「C」は、前ページの目次の四角の中「推計方法について」の「4. 35人学級について」に記載のとおり、法令に基づき段階的に35人学級を編制した時の理論値である。それに対して「実C」の欄は、小人数学級を編制したものも含む、今年度の実際の学級数を掲載している。なお、特別支援学級については、学級数、児童・生徒数ともに各校の下段に括弧書きで掲載しており、その数は全体の内数となっている。また、この特別支援学級の児童生徒数は、小学校では今年度の数値をそのまま推移させ、中学校では小学校の在籍人数を反映させている。

P2の「中学校生徒数推計表（総括）」も、小学校と同じ構成になっている。

P3以降の各学校の学年別の推計表では、5人以内の人数変動で学級数が増減する学年欄に白丸と黒丸を記している。白丸は5人以内の児童生徒数減で学級数が減少すること、黒丸は5人以内の児童生徒数増で学級数が増加することを表している。

令和12年までの推計で増加傾向を示している学校は、小学校では神明小、中学校は西小倉中である。神明小は、大規模マンション開発の影響によるもの、西小倉中は、宇治西小倉学園の開校に伴い、令和8年度以降に北小倉小学校区の進学先を変更することによるものである。全体的には、今後も児童生徒数の減少の傾向が続くものと考えている。

[質 疑] なし

#### (4)「要望書」等について

[説 明]

笠取第二小学校育友会、教育後援会、池尾・二尾・炭山各区、地域活性化・笠二小児童減少対策委員会の連名より、笠取第二小学校及び校区に関する要望書の提出があった。

[質 疑]

[委 員] 先生方に話を聞くと、鹿が年々厚かましくなっていており、校門が開いていたらまだ学校が終わっていないのに入ってきてしまうことがあるらしい。花壇の花が全部食べられたりもするので、校門の開閉にも気を配らなければならないとのことである。

[事務局] 鹿の害から守るために、ネット等の高さを上げる等の対策はしている。校門についてもネットを張る範囲を拡大したりしているが、塞いでいても入ってくるという状況である。また、三室戸小学校や菟道小学校にも鹿が現れるので、学校と連絡を取りながら、ネットを高くする等の作業を行っている。

## (5) 宇治市教育委員会後援事業について

[説明]

京都文教大学主催の「ともいき広場特別企画 第6回 春のスポーツフェスタ in 京都文教大学」のほか7件、計8件の事業について後援を承認した。

[質疑] なし

## ○日程第3 議案第16号 令和6年12月宇治市議会定例会提出議案に係る意見聴取について

市議会提案前の案件であるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により非公開とする旨の提案があり、全会一致で決定する。

[説明]

本件は、令和6年12月宇治市議会定例会提出議案として、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に基づき、宇治市長から12月13日付けで意見を聴取されているもので、教育委員会としてはこの内容に異議がないとするものである。

議案は、令和6年度宇治市一般会計補正予算第4号である。

まず、(仮)西小倉地域小中一貫校整備事業費であるが、現在実施している建設工事に関し、令和6年4月8日を基準日としてインフレスライド条項を適用した工事費用の増額、及び土壌改良工事における掘削土にコンクリートガラが多く、その処分等費用が増加することによる工事費用の増額として、2億5,570万円を計上している。また、同様の事情により、翌年度以降の事業費に関する債務負担行為の限度額として1億6,160万円を計上している。

次に、学校給食費高騰対策事業費であるが、現在、米価格をはじめとする食材費が高騰しており、宇治市では小学校の給食費、1食あたりの保護者負担額240円を維持するため、令和6年度当初予算額で4,600万円の補助金を支出している。しかし、予算編成時以降、食材費が想定以上に高騰したことに加え、令和6年12月からは米価格も引き上げられることから、保護者負担額を維持するために、追加支援として1,260万円の予算額の補正を行うものである。

最後に、学校給食調理委託事業である。南部小学校給食調理等業務委託について、令和7年度から9年度の3か年分を対象に公募型プロポーザルによる業者選定を進めていたが、不調になったため、当初の4,410万円に740万円を追加し、5,150万円を上限として、再度公募型プロポーザルによる選定を実施するために必要な債務負担行為額を設定し直すものである。

[質疑・討論] なし

[採決] 採決の結果、全会一致で可決する。

○**閉会宣言** 教育長が12月教育委員会定例会の閉会を宣言する。

**閉**                      **会**                      (午後6時11分)